

単元名

なつがやってきた～すなはまであそぼう～



#自然 #砂浜 #生き物 #海水 #季節 #夏

単元の概要

5月の全校遠足「中町小わくわくオリエンテーリング」で行った長瀬海岸を素材に、海という自然の事物、海で起こる現象に目を向ける活動を仕組み、海で遊ぶ活動を通して、不思議さや面白さなど海についてのイメージを広げるようにする。

【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)

○海の楽しみは何だろう。

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)

○海にはどんな生き物やものがあるだろう。

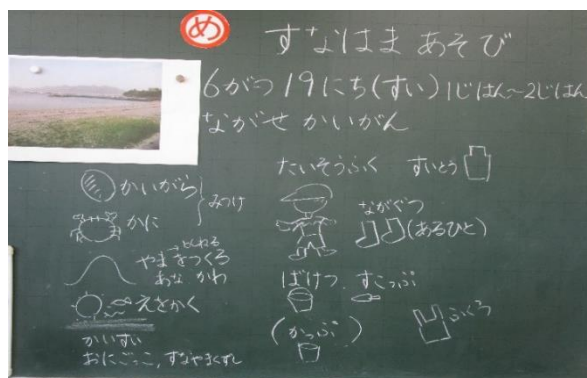
【単元の目標】

○海に生息する生き物や自然の様子を知り、海や生き物に興味をもち、それらを大切に思う気持ちを育てる。

活動の様子 (全4時間)

【情報収集・課題設定(1時間)】

- 長瀬海岸について、遠足で行った際、砂浜でカブトガニ鬼ごっこをして遊んだことを想起させる。
- 砂浜や干潟、海水でどんな活動をしたいか考えさせる。



学習計画の板書

【実行(2時間)】

○砂浜

- ・砂山を作る。
- ・絵を描く。
- ・貝殻を集める。
- ・走る。



砂浜遊び



砂浜遊び

○干潟

- ・ヤドカリを見つける。
- ・穴を掘って、カニを捕まえる。
- ・見つけた生き物を観察する。



生き物見つけ



生き物見つけ



生き物見つけ

【振り返り(1時間)】

○海で見つけたものについて、ワークシートに絵と文で表す。

児童の変容

- 砂浜を歩いたり走ったりした際、足が埋まる感覚に気付き、面白さを感じていた。
- ヤドカリやカニのいる場所が分かった。
- 最初は生き物を持ち帰りたと言っていたが、海の生き物の命を大切にしようという気持ちに変わった。

成果○と課題●

- 校区に長瀬海岸という身近な自然があり、「夏」という季節を楽しむ素材として「海」があることが分かった。
- 「海」は泳ぐという楽しさだけでなく、生き物を育む場所であることや砂浜のよさを実感することができた。
- 干潮に生き物がいるという時期を逃さないよう、活動だけに終わらないように計画的かつ継続的に取り組む必要がある。また、さとうみ科学館とも連携して、生き物についての興味関心を広げたい。

江田島市の魅力を発信！

～Catch Your Dream！ココロヒカレ☆オブジェ制作プロジェクト～



#自然 #海 #長瀬海岸 #SUP #オブジェ #持続可能なまち

単元の概要

江田島市は、自然豊かな山や海に囲まれた温暖な気候の瀬戸内海に浮かぶ島である。校区には、島の玄関口である中町港・高田港があり、夏は多くの海水浴客が来島する。そのような江田島市を故郷とする児童が、江田島市の課題について考え、協働的に問題を解決することを通して、ふるさと江田島市の魅力を再認識できる単元である。オブジェ「ココロ」の制作は、SUP 体験やネイビーロードを眺めることができる長瀬海岸に設置し、「みんなが 心ひかれる 笑顔になる つながることができる」場所となるようにした。

【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)

○持続可能なまちとはどんなまちだろうか。

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)

○ふるさと江田島市はどのようなところだろうか。

【単元の目標】

○ 「ふるさと江田島市はどのようなところだろうか」を問い続けることを通して、様々な「人・もの・こと」が関わり合うことで、地域の魅力が生まれていることに気付き、江田島に愛着をもって、地域のためにできることを考えて積極的に関わることができるようにする。

活動の様子 (全 42 時間)

【情報収集(6時間)】

○これまでの学習や昨年度の体験から、江田島市の魅力と課題について調査する。

○江田島市で育った自分たちの環境について、家族インタビューする。

○江田島市のために働いている人(江田島市役所 企画振興課、観光交流課、さとうみ科学館)とつながり、インタビューをする。

○江田島市で働いている人(フウド、江田島荘)や地域の人とつながり、インタビューをする。

【課題設定(4時間)】

○5年の学習(総合的な学習の時間「江田島の海を見つめて」)を想起し、課題を見つける。

○移住・定住者を迎えるために「みんなが 心ひかれる 笑顔になる つながることができる」ものを考える。



インタビューの様子

【情報の収集(6時間)】

- SUPの体験をし、海の様子(波・香り・海水等)を感じる。
- ビーチコーミングをし、海岸にある漂着物を収集する。
- 江田島湾(内海)と沖美町の海岸(外海)の違いを観察する。

【整理・分析(10時間)】

- いつ・どこで・どのようにオブジェを作るのか、適切な場所と持続可能なものを考える。
- デザインにそって、オブジェ制作の計画を立てる。

【実行(10時間)】

- オブジェの制作をする。

【まとめ・創造・表現(4時間)】

- 市議会アドベンチャー、セレモニー等で、発表する。
- リーフレットやパンフレットを作成し、江田島の魅力を発信する。

【振り返り(2時間)】

- 持続可能なものにするために話し合いをする。
- 学習したことや人との出会いをきっかけにして、今後に生かす。



オブジェ「ココロヒカレ」
welcome ボードの制作

児童生徒の変容

- 縦割り班のリーダーとなって行った「中町小わくわくオリエンテーリング」を生かし、自分達ができることを最後までやり切ることができた。また、コミュニケーション能力や表現力が高まった。
- 地域の方との出会いや体験を通して、江田島市の最大の魅力である海について深く考えることができた。
- 協働的な学びを通して、自分の強みを最大限に生かすことができるようになった。

連携機関・団体・人物

【江田島市の魅力や課題をインタビュー】

- 江田島市役所 企画振興課 尾上元気さん 内藤亜弓さん
- 江田島市役所 交流観光課 小西俊介さん
- 元さとうみ科学館職員 花崎直子さん
- 江田島荘 代表 阿部直樹さん 宿泊部 西野和幸さん
- 料理長 廣松昂是さん
- フウド SUP インストラクター 後藤峻さん

【廃材や海洋漂着物等を利用したオブジェ制作のワークショップ】

- アーティスト 今田千佐子さん
- 業務員 関本 敦さん
- 大柿産業 代表 中本修二さん 一級建築士 塚田忠則さん



オブジェ制作のワークショップ

成果○と課題●

- 3年生から始まる総合的な学習の時間を4年間で積み上げていくことは、児童にとって、江田島市について深く考えるきっかけとなる。また、持続可能なまちづくりとして、中学校へつなぐことができた。
- 児童だけでなく、教職員も、実際に見て「地域を知る」ことにつながり、生きた教材となった。カリ・マネの視点を取り入れていくことで、より主体的・対話的な深い学びとなった。
- 持続可能にしていくために、目的意識をもつことができるよう年間指導計画等に位置づけ、見直しと修正を行っていくとよい。

行事名

中町小わくわくオリエンテーリング in 長瀬海岸



#自然 #海 #長瀬海岸 #SUP #オブジェ #オリエンテーリング



単元の概要

新しい学年、新1年生が入学する4月、小学校や校区のことを知らない1年生がより生活を安心して、楽しく過ごすことができるよう、さらに全校児童や教職員が「地域を知る」こと、6年生がリーダー性を発揮できるように縦割り班で行う遠足オリエンテーリングを設定した。今年度は3年目で、6年生が縦割り班のリーダーとなって、計画や実践できるようにした。また、前年度の振り返りを生かして、さらに主体的・対話的で深い学びとなるよう縦割り班で協働的に活動した。

【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)

○ふるさと江田島市はどんなところだろうか。

【活動における貫く問い】(行事を通して考え深めていく「問い」)

○中町小学校区のヒト・モノ・コトはどんなものがあるだろうか。

【活動の目標】

○中町小学校区の海に関するヒト・モノ・コトに親しみ、理解するとともに、それらの課題について考え、友達と協力しながら、主体的にオリエンテーリングをすることができる。

活動の様子 (全6時間)

【情報収集(1時間)】

○昨年度の体験から、発見したことや伝えたいことを整理し、コースを考え、チェックポイントとなる場所、かかる時間について、調べる。

【課題設定(1時間)】

- 縦割り班ごとに行ってみたいポイントと写真を見つけ、行く順番を考える。
- 午前中ゴールの長瀬海岸、午後のゴールの中町港(みなと公園)の行き方と時間配分を考える。



ネイビーロード

【情報の収集・整理・分析(1時間)】

- さとうみ科学館のゲストティーチャーより、「カブトガニの危機」というおにごっこを長瀬海岸の砂浜で行う。
- おにごっこを通して、カブトガニの生態について知る。
- 本物のカブトガニと触れ合うことを通して、江田島湾のカブトガニについて知る。

【実行(2時間)】

- 中町小学校「わくわくオリエンテーリング」(縦割り遠足)、「カブトガニの危機」(おにごっこ)をする。



長瀬海岸「カブトガニの危機」(おにごっこ)

【まとめ・創造・表現(0.5時間)】

- オリエンテーリングの地図やワークシートを集計して、縦割り班ごとにまとめる。

【振り返り(0.5時間)】

- おにごっこで、最後まで残った児童の紹介をしたり、遠足の振り返りを発表したりする。
- 学習したことをきっかけにして、総合的な学習の時間や各教科等に生かす。

児童の変容

- 「中町小わくわくオリエンテーリング」をすることで、自分の住んでいる地域ではあるが、初めて知ったこと、新たに発見したことがあったと喜びの声があがった。
- 前年度の振り返りを生かすことで、主体的に行動する姿がさらに見られるようになった。
- ピアサポートをすることで、新1年生の心理的安心が生まれ、6年生は自己肯定感が向上した。

連携機関・団体・人物

【カブトガニについてのワークショップ】

- さとうみ科学館 専門員 平山良太さん
- さとうみ科学館 学芸職員 鎌崎賢三さん



生きたカブトガニとのふれあい

成果○と課題●

- 入学して間もない1年生を6年生がサポートし、小学校区を歩き、海の高さや安全性を確認することは、各教科を学ぶ必要性につながった。
- 児童だけでなく、教職員も、実際に見て「地域を知る」ことにつながり、生きた教材となった。カリ・マネの視点を取り入れることで各教科や総合的な学習の時間とのつながりが出てくるので指導に効果的である。
- 毎年、必ず、下見をしておくことが必要で、安全・安心に行うことができる。歩く距離と時間、事故やケガ防止に努める。